

民主政治の成立



(I) 政治と国家

■ **政治**：人々が共存するために社会全体に関わる事項を調整し、決定する活動のこと
選挙や政党のイメージとして強いと思うが、クラスでの多数決や部活での話し合いも広い意味で政治といえる。

■ **国家の三要素**：国家に必要な三要素→①[]・②[]・③[]

① 領域…領土・領海※₁・領空からなる

*[] (EEZ)：基線から 200 海里の距離で、漁業や資源の権利が認められる範囲

+ α 日本の周辺には、レアアースやメタンハイドレートといった天然資源が採れる場所があり、この権利を取り合うがために、近隣諸国との領土問題が生じている。

★日本の国土面積は 38 万 km² (世界 60 位) だが、領海+EEZ の海域面積は 447 万 km² (世界 6 位) である。

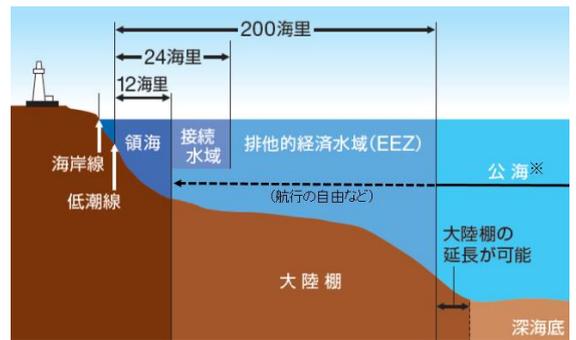
② 主権…「最終的な意思を決定する権力」

「全ての人を統治する権力」

「他国から独立できる権力」

これらが備わった国を、[] という。

cf:[] …主権の概念を理論化した人物



※ 1 領海・排他的経済水域の模式図(海上保安庁 HP より)

(II) 国家のあり方

《絶対王政から民主政治へ》

ヨーロッパの近代国家=王による支配で成り立っていた。(絶対王政)

この頃の思想=[] →王による独裁支配を正当化

↓ 17c~18c **市民革命**：政治の仕組みを根本的に変えよう！という動きが世界的に広まる

[]：王権神授説を否定する形で、新たな国の在り方を示していった。

cf:時代によって変化してきた国家の形

18c~19c[]
市民革命がおり、国民が自由を獲得した。
国家は、国民の生活にあまり関わらない。
最小限の治安維持にとどめていた。

cf:別名 **小さな政府**



20c[]
失業問題や不況により、生活が苦しくなる
やはり、国が貧富の格差解消へ向けて
積極的に介入する必要があると考えた。

cf:別名 **大きな政府**

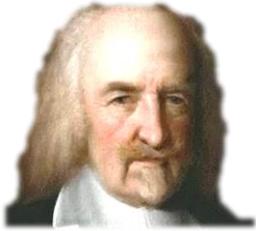
■ **社会契約説**：自由で平等な人間が国家樹立のために契約を結び、それを基にした政治権力の樹立を提唱した

社会契約説を提唱した人物として有名なのが3人！超頻出なので確実に覚えておきたい。

①人間は自然状態でどうなる→②国は自然状態でどうなる→③このような国を作るべき！
という同じような流れで整理すればよいので、丁寧に抑えていこう。

11

(英:1588~1679) Thomas Hobbes



*主著 [12]

*人間観 生まれつき自己保存の欲望がある
⇒欲望を満たすために互いに争い合う

*自然状態 [13]

⇒このままでは人間は恐怖と不安に襲われてしまう。

*理想国家 人民を守るために、すべての権利を放棄し**自然権を**[]する。
そして、統治者が**強大な力で国民を服従させるのが理想的である**と説いた。
※結果的に絶対王政のような国家を正当化したことになった。

14

(英:1632~1704) John Locke



*主著 [15]

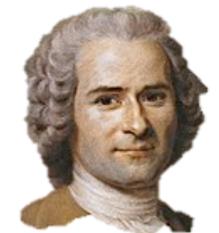
*人間観 人間は理性をもち、基本的には平和を求める。
⇒しかし、絶対確実に保証されるわけではない。

*自然状態 基本的に自由平等が保たれるが、確証はない。
一部の人により、財産や生命が侵害される危険もある。

*理想国家 人権の侵害があった時にそれを**裁く権力 (=議会) が必要!** ([]**民主制**を理想)
国民は議会に**自然権を**[]する。
※もし議会が権力を乱用したときには、[16] (**革命権**)を行使する。

17

(仏:1712~78) Jean-Jacques Rousseau



*主著 [18]

*人間観 自由で平等で、思いやりのある存在

*自然状態 本来は平等な世界であるが、発達することで格差が生まれ、戦争状態を生み出してしまうことがある。

*理想国家 みんなが初心に帰れば大丈夫。(有名な言葉「自然に帰れ」)
→社会の幸福を目指す共通の意思=[19] をもち、
みんなが政治に参加できる []**民主制**が理想!

+α

- ホッブズの思想は結果的に**絶対王政を正当化**したことになった
- ロックの思想は**アメリカ独立革命**に影響を与えた
- ルソーの思想は**フランス革命**に影響を与えた

民主政治の成立



(I) 政治と国家

■ **政治**：人々が共存するために社会全体に関わる事項を調整し、決定する活動のこと
選挙や政党のイメージとして強いと思うが、クラスでの多数決や部活での話し合いも広い意味で政治といえる。

■ **国家の三要素**：国家に必要な三要素→①^[1] **領域**]・②^[2] **主権**]・③^[3] **国民**]

① 領域…領土・領海^{※1}・領空からなる

*^[4] **排他的経済水域**] (EEZ)：基線から 200 海里の距離で、漁業や資源の権利が認められる範囲

+ α 日本の周辺には、レアアースやメタンハイドレートといった天然資源が採れる場所があり、この権利を取り合うがために、近隣諸国との領土問題が生じている。

★日本の国土面積は 38 万 km² (世界 60 位) だが、領海+EEZ の海域面積は 447 万 km² (世界 6 位) である。

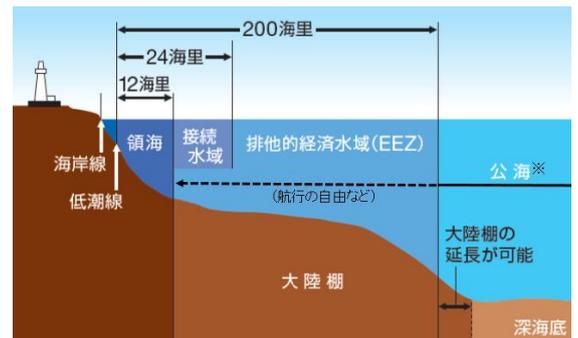
② 主権…「最終的な意思を決定する権力」

「全ての人を統治する権力」

「他国から独立できる権力」

これらが備わった国を、^[5] **主権国家**]という。

cf:^[6] **ボーダン**]…主権の概念を理論化した人物



※ 2 領海・排他的経済水域の模式図(海上保安庁 HP より)

(II) 国家のあり方

《絶対王政から民主政治へ》

ヨーロッパの近代国家=王による支配で成り立っていた。(絶対王政)

この頃の思想=^[7] **王権神授説**]→王による独裁支配を正当化



17c~18c **市民革命**：政治の仕組みを根本的に変えよう！という動きが世界的に広がる

^[8] **社会契約説**]：王権神授説を否定する形で、新たな国の在り方を示していった。

cf:時代によって変化してきた国家の形

18c~19c^[9] **夜警国家**]

市民革命がおこり、国民が自由を獲得した。
国家は、国民の生活にあまり関わらない。

最小限の治安維持にとどめていた。

cf:別名 **小さな政府**



20c^[10] **福祉国家**]

失業問題や不況により、生活が苦しくなる
やはり、国が貧富の格差解消へ向けて

積極的に介入する必要があると考えた。

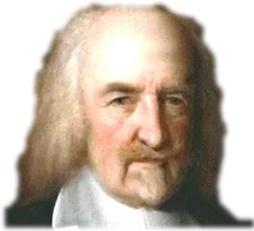
cf:別名 **大きな政府**

■ **社会契約説**：自由で平等な人間が国家樹立のために契約を結び、それを基にした政治権力の樹立を提唱した

社会契約説を提唱した人物として有名なのが3人！超頻出なので確実に覚えておきたい。

①人間は自然状態でどうなる→②国は自然状態でどうなる→③このような国を作るべき！
という同じような流れで整理すればよいので、丁寧に抑えていこう。

11 **トマス=ホブズ** (英:1588~1679) Thomas Hobbes



* **主 著** 〔¹² 『リバイアサン』 〕

* **人間観** 生まれつき自己保存の欲望がある
⇒欲望を満たすために互いに争い合う

* **自然状態** 〔¹³ **万人の万人に対する闘争** 〕
⇒このままでは人間は恐怖と不安に襲われてしまう。

* **理想国家** 人民を守るために、すべての権利を放棄し**自然権**を〔 **譲渡** 〕する。
そして、統治者が**強大な力で国民を服従させるのが理想的である**と説いた。
※結果的に絶対王政のような国家を正当化したことになった。

14 **ジョン・ロック** (英:1632~1704) John Locke



* **主 著** 〔¹⁵ 『市民政府二論』(『統治二論』) 〕

* **人間観** 人間は理性をもち、基本的には平和を求める。
⇒しかし、絶対確実に保証されるわけではない。

* **自然状態** 基本的に自由平等が保たれるが、確証はない。
一部の人により、財産や生命が侵害される危険もある。

* **理想国家** 人権の侵害があった時にそれを**裁く権力 (=議会) が必要!** (〔 **間接** 〕**民主制**を理想)
国民は議会に**自然権**を〔 **信託** 〕する。
※もし議会が権力を乱用したときには、〔¹⁶ **抵抗権** 〕(**革命権**)を行使する。

17 **ルソー** (仏:1712~78) Jean-Jacques Rousseau



* **主 著** 〔¹⁸ 『社会契約論』 〕

* **人間観** 自由で平等で、思いやりのある存在

* **自然状態** 本来は平等な世界であるが、発達することで格差が生まれ、戦争状態を生み出してしまうことがある。

* **理想国家** みんなが初心に帰れば大丈夫。(有名な言葉「自然に帰れ」)
→社会の幸福を目指す共通の意思 = 〔¹⁹ **一般意志** 〕をもち、
みんなが政治に参加できる〔 **直接** 〕**民主制**が理想!

- + α
- ホブズの思想は結果的に**絶対王政を正当化**したことになる
 - ロックの思想は**アメリカ独立革命**に影響を与えた
 - ルソーの思想は**フランス革命**に影響を与えた